

コミ協だより

第10号

みなと

発行日 平成27年2月1日
発行 湊校区コミュニティ協議会
総務部会 編集委員会

新たな出発の年に

会長 阿部 一之



今年度もあと一月あまりとなりました。計画していた事業もほとんど終了いたしました。これまでの皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。今年度も役員の新々なアイデアと積極的な実践力で、新たな事業が提案され実施されました。「山歩きハイキング」や「うたごえ喫茶」など多くの参加者とともに楽しく実施できました。新年度も、このような考えで会員が多く参加でき、楽しく活動できる企画を取り入れていきたいものと考えています。さて、これまで地域の拠点として共に歩んできました湊小学校が下町三校とともに統合し、「日和山小学校」として開校いたします。それに伴い、当コミ協も名称や規約の一部変更、組織の見直しなどを検討していかねければならないと考えています。また、小学校校舎の跡地の活用についても課題といえます。いろいろな意味で新年度は、コミュニティ協議会にとつて新たな出発の年、躍進の年になることと思います。そのためにも今から心して取り組んでいかなければと思っております。今年もまた皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

「湊小学校の閉校行事を終えて」

副会長 大野 義彰



平成25年度に、湊小学校の平成27年3月末での閉校、入舟、栄、豊照3校と統合し「日和山小学校」として誕生することが決定されました。湊校では、26年度活動として3校とのふれあい活動を進める一方、主要行事、活動については「閉校記念」「ファイナル」の冠をつけて最後の年を盛り上げて来られました。閉校以来12年の長きにわたって、新潟下町、湊地区の教育、地域活動の拠点として、又地域住民、卒業生の心の拠り処としての、湊小学校の閉校はまことに残念なものであります。在校生の現状などやむをえないものと思われまます。

コミ協としても、多くの方々がお窓生としてあるいは、かつての父兄という立場であることから、「運



動会」「文化祭」など湊校の各種行事、活動への積極的なお手伝い、あるいは参加の呼びかけを進めて行くこととし、学校とも話し合い、打合せをしてみました。閉校記念式典、記念碑除幕、お別れ会の開催が平成26年11月15日に決定してからは「式典部」「記念碑部」「記念誌部」「お別れ部」の各部会にコミ協関係者も参加、学校、父兄、同窓の方々と共に、閉校記念行事を盛り上げていくことを確認いたしました。

11月15日午後2時「閉校式典」が厳かな雰囲気の中やや肌寒さを感じる体育館で開催されました。式典には事前申込みの倍近い300名を超える地域、同窓、旧職員ができたばかりの「記念誌」を手に参列して頂きました。

式典の後は、記念碑の除幕式がおこなわれました。午後5時半からホテルオークラで「お別れ会」の開催です。市教委ではなく、関係者有志の主催というところでコミ協としても力が入った行事でありました。最大の関心事である参加者数は、内心無理と思いつつも多目の250名の目標としました。学校には旧職員の先生方への呼びかけ、地域には回覧板やチラシ掲示、又同窓生へはともかく伝手を頼ってコミ協ととりわけ同期会、同級会の開催予定幹事の方には、日時を合わせての開催依頼など沢山の方に参加呼びかけをいたしました。結果として290名という目標を大中に超える方々に参加頂くことができました。

高らかに歌った校歌、元気を貰った新潟総踊り、そして懐かしい方々との懇親、あちこちに人の輪ができ、同級生同士、ご近所同士の笑顔、楽しい語らい、あっといふ間の二時間半でした。田中お別れ部会長の絶妙な締めでお開き。湊校への皆様の



熱い思い、懐かしい思い出を胸に、盛況裡に開催することができました。皆様方のご協力に心からお礼申し上げます。3月の卒業式までの間まだまだ学校行事が企画されております。参加の機会がありました際には、皆様のご協力をお願いいたします。

閉校式典あいさつ (抜粋)



湊小学校は、毎年創立記念日の五月九日に「緑祭り」を行い、湊小学校の歴史と伝統を築いてこられた地域の方々や旧同人の皆様さんと、現同人や保護者の皆さんとが一堂に会し、子どもを話題を中心に、湊小学校の昔を伝え合い、湊小学校の今を語り合いました。

そのように、湊小学校は、何よりも子どもたちの成長を願い、地域と保護者、学校が教育目標「自ら学びとる子ども」を育てるべく力を合わせてきた学校でした。

湊小学校の子どもたちの「花は咲く」の歌を聴くとき、湊小学校にかかわってきた私たち一人一人には、「自分は、湊小学校に何を残しただろう。」という問いが向けられます。

その答えは私たち一人一人によって異なるでしょう。しかし、私たちが確実に残したものが、一つだけあります。

それは、目の前にいる、この「湊小学校の子どもたち」です。この子どもたちは長く引き継がれてきた湊小学校の歴史と伝統をとおして育てられた最後の子どもたちです。地域、保護者、学校が力を合わせて育ててきたこの子どもたちこそ、私たちの宝であり、誇りであり、希望です。

来年度から湊小学校の子どもは、日和山小学校に受け継がれ、また新しい歴史を刻んでいきます。私たちが育ててきた子どもたちが、湊小学校で学んだたくさんさんのことを胸に、新しい日和山小学校で大きく羽ばたいて行ってくれることを願っています。

平成二十六年十一月十五日
新潟市立湊小学校
校長 石川 治

未来に向かって



野村 幸雄

平成二十六年十一月十五日、湊小学校の閉校式が行われ、百二十一年の幕を閉じました。

当日は篠田市長を始め学校関係者・卒業生・地域の方々など沢山のご来賓の方々にお越し頂き、式典が行われました。全校児童によるお別れの言葉が素晴らしく、全員が元気いっぱい閉校を惜しみ、また未来に向かって届けとばかり大きな声を出して出席者全員に感動を与えてくれました。

その後全員で校歌を合唱して閉校式を終え、外へ出て記念碑除幕式が行われました。わたしも校長先生、子どもたちと一緒に綱を引っ張って参加。無事除幕

式を終えることが出来ました。午後五時三十分よりホテルオークラ新潟4Fコンチネンタルでお別れ会のパーティーが盛大に行われ、三百人ほどの湊小学校の関係者がパーティーに出席され、大変な盛り上がりで我々役員も驚き、はりきらざるをえませんでした。これも湊小学校の伝統の底力だと思っております。

湊小学校はなくなりますが、子どもたちはすぐに新しい環境にも慣れ、元気に登校してくれる事でしょう。

湊校区も寂しくなりますが、高齢化によりこれからますますコミュニティの活動が大切になります。二葉コミュニティが中心となつて下町をささえていかなければなりません。これからは皆で支え合っていきましょう。湊小学校閉校実行委員会の皆さん、本当にご苦労さまでした。ありがとうございます。

昔の思い出を今また

副会長 洪谷 隆司

「良かったわねえ、また行くよ」。それが打ち上げ会での総意。

十月二十八日(火)、文教部会では初の「健康山歩き会」を実施いたしました。目的地は新津の菩提寺山。参加の呼びかけは地域に募集チラシを回覧していた

だき、予定した二十名が応じてくれました。
当日の天候は、前日の雨も上がり、曇空で若干肌寒かったのですが全員行く気満々。
一行は、お互いに初対面でも、登山中は自然と会話も弾み、笑い声も出るなど、紅葉の山歩きを満喫しておりました。

今回の企画は、地域に日本百名山を踏破されたご婦人が居り、リーダーをお願いしたところ、快く賛同していただき、初心者向きのコース設定から、補助者として山仲間三名を同行してもらおう手配の良さには、感謝感激。例え低い山でも、山の厳



しさを知った人ならではの配慮により、安心して楽しい一日を過ごすことができました。
冒頭のように、また来年と当てにされたようです。

うたごえ喫茶

文教部 須貝 俊夫

二十六年度の新規事業として、十月三十日(木)に、中央公民館と共催で、「うたごえ喫茶」を、二葉コミュニティハウスで開催しました。

伴奏、講師は「藤田 実」先生にお願いしました。先生は、イタリア軒、喫茶「マキ」等で、演奏をしている大ベテランです。

四十人程の参加を見込んでおりましたが、三十三人の方が参加してくださいました。

先生の伴奏で、想い出の歌、懐かしい歌、民謡等を歌うことが出来ました。
歌の合間には、先生から歌の解説があったり、クイズが出されたりして、あつ



という間に予定時間の二時間が過ぎました。
参加された方のアンケートからは、「大きな声で歌って、気分がすっきりした」「また参加したい」「楽しかった」等の意見を頂きました。

「楽しく学ぼう認知症」

厚生部 田邊 龍治

昨年度に続き二回目となった認知症研修会は、九月十九日、みどり病院の支援を受け、昨年度に続き七十余名の参加者を得て開催されました。

てやって良かったと思っております。
来年度は、参加者の中に認知症の方を抱えておられる方もいらっしゃる事を考え「認知症と予防」と「認知症の方に対する対応」に重点を置いた研修会をと考えておりますのでふるってご参加下さい。



マジックショー&餅つき大会

文教部 須貝 俊夫

毎年恒例の「マジックショー&餅つき大会」が、十二月六日(土)に二葉コミュニティハウスで開催されました。

第五回となる催しでしたが、当日は十二月としてはびっくりするような大雪でした。
マジックショーでは、マジックワールドの皆さんが、日ごろの研さんの成果を存分に発揮されて、観客の方々に驚かせてい



ました。

餅つき大会では、十分にもち米をつぶしたあとに、力をこめて餅をついていました。子供たちは、大人と一緒に餅をつきました。

お母さん方は、日ごろのうっ憤を晴らすかのように、力一杯餅をついていました。
つき立ての餅は、あんこ餅、きなこ餅にして皆さんに食べていただきました。



「白地図記入による 安心安全マップの作成について」

厚生部 田邊 龍治

このマップの作成については、五月の湊コミュニティの総会で承認された事項でしたが、諸般の事情で遅くなつてしまいました。今頃は、町内・自治会長や担当民生委員の手で作成されている頃だと思つています。

この安心安全マップは、私が勤め人だったという事もあり、会長なのに、町内に誰が居住しているのか、名前も顔も分からなかつた事。更に市からは、緊急時の避難体制を各自治会で作

れ等の指示があつた事に由来します。

私の場合は、町内の総会です承を受け、町内の皆さんに、三年に一回、年齢や緊急時の連絡先が分かる様な居住している方の世帯表を出してもらい、世帯構成員一覧を作成し三役だけ（個人情報保持の必要）が持つ事にしました。又、白地図は、

転居・転入等の変化もあるので手書きの住宅白地図の上に世帯主の名前を鉛筆で記入（これは組長に配布）。更に、緊急時に搬送が必要な人・独居の人・緊急時に避難所までの付き添いが必要な人等、住宅地図の上で直ぐ分かる様に印をつけ緊急時の支援体制を图示したものを三役に持つてもらっていますし、それぞれの担当者には了解をもらっています。

十一月の長野県神城断層地震の際に小谷村では迅速な対応が出来、犠牲者がゼロだったのは住宅地図に住民の状態が一目で分かるような記載がされていたからだというのはテレビの放映で明らかになったと思います。今回の作業は緊急時の避難体制を組む為にも、自治会活動活性化の為にも役立つものと考えています。

「防災の交流施設の視察研修」に参加

副会長 三條 澄

中央区コミ協連絡会主催の視察研修会に、阿部会長と一緒に12月3日の暴風雨の中参加総勢34名で一路「やまこし復興交流館おらたる」を目指しました。長岡へ近づくにつれて新潟の雨が嘘のように陽が差す天気の中、交流館に到着。

平成16年10月23日に発生した中越大震災の時中学生だった女性職員が、展示スペース、交流スペース、地形模型シアター（8分程度）を、地震発生時から、避難所生活での出来事を自身の体験を含めて説明してくれました。

その後山古志役場職員（課長）が語り部として、大震災の体験や教訓を話してくれました。あれだけの大地震なのに山古志では、一人の死者も出なかったのは何故なのか？あそここのじいちゃん、この時間テレビの前で水戸黄門を観ている、あそこはあちゃん、畑に行っている等、地域の人々の行動をみんなが知っている為、救援隊が来る前に近所の人達が協力して、

いち早く助け出したからだそうです。孤立の際にも村民が助け合つて救助が来るのを待っていたそうです。

災害時で大切なのは、常日頃の隣近所さんとの会話や良好な付き合いが必要と痛感致しました。

次に訪れたのは、三条市の水防学習館です。平成16年7・13及び平成23年7・29水害の堤防決壊場所、浸水した水深を柱に表示、水害の記録、消防救助作戦地図信濃川・五十嵐川・刈谷田川についての気づき、逃げどきマップ、車が水没時にドアにかかる水圧体験装置、水害降雨再現シアターでは、両水害の緊迫した怖さを体験できました。両水害を教訓に三条市は、独り暮らしの高齢者に携帯ラジオを配布して緊急情報を速やかに伝達して、犠牲者を出さない方策を実施しています。

最後に湊コミ協でも、こんな研修会を実施したら、活動の活性化に役立つと考えます。